

連続寄稿



どうなる地方の建設業 ④

群馬県建設業協会会長

青柳 剛

3月18日、県知事から一般社団法人への移行認可書が交付、記念すべき最初の総会を執り行った。大きく分ければふたつの

部率(けん)制をしっかりと働を議論してきた。それは、ダンキアうように作られている。ルピンゲ対策であり、地域要件のール(定款)に基づきながら、バリアのハードルを上げ続ける牽制あつて組織を動かしていること、生産性を上げるつくり方くということであり、裏返せばも大きなテーマだった。量の下既製服を着ることによって、組げ止まりを押しとどめることに織の自由度は高まり、幅広く動きやすくなるということだ。業がどんな役割を果たしている技術者・技能労働者の問題だ。

群馬建協の「3本の矢」

であり、もうひとつは「公共事業の量が下げ止まった」ということである。運営の仕方もすべてルールどおりにきちんと手順を踏んだ総会だった。締めくくりのあいさつでも触れたが、公益法人改革の趣旨について理念を説明し、再確認をした。「一般社団法人」としての既製服を着なければならぬということだ。この既製服、組織の中で内

協会活動にとつてさらに重要なのは、もうひとつの「公共事業の量が下げ止まった」ということである。事業量が上向いたということとは、今までの思考の回路を入れ替えなければならぬ。「パラダイムシフトの年度」になったといえる。業界活動は「量」が下がり続けてきた時代の「制度」と仕組みのありようか、「前面に押し出す広報戦略が求められていた。今度は前向きに吹き出した順風をいかに長続きさせることが出来るかどうかが問われている。行動指針も入れ替えなければならぬ。それぞれの地区で活躍する。「3本の矢」ならばもっと分かりやすい。事業量の「見直し」の矢、労働単価の「報い」の矢、技術者

追い風を長続きさせるために

の「やりがい」の矢の3本、韻を踏んで、同じ「い」でまとめてみた。矢を射る「い」にもつながっていく。「建設業再生の3本の矢」として記者会見で発表した。事業計画と連動しながら、目標をきっちりとした行動をしていくことが大切だ。ものづくりを通して「3本の矢」を発信できれば、前向きの風が今後も吹き続ける。加えて逆風の時に進めてきた活動とは異なった切り口、国民の眼を向かせ続けるソフトな仕掛けも必要になってこよう。「女性、環境、若者、IT」といったところがキーワード、まずは26年間続いてきたゴミゼロの日(5月30日)の「道路クリーン作戦」と「女性環境すみずみパトロール隊」の連携、新たな活動を模索しながら新年度が始まりました。